

「地域防災リーダー」と「地域防災サポーター」

市では、防災に関心を持つ人や防災士・県地域防災推進員が、本市に特化した防災に関する講座を受講することで、地域の特性を把握し様々な防災に関する普及・広報活動を行う「鹿屋市地域防災リーダー」と認定します。リーダーは、防災に関する一般的な知識を身に付けた「鹿屋市地域防災サポーター」と協力し、自主防災組織の活性化と地域防災力の向上を図っています。地域防災リーダーを小学校区ごとに2人配置することを目標に、今年も養成講座等を11月に開催する予定です。

鹿屋市地域防災リーダー

地域で実施する防災訓練等で指導や支援を行う人

鹿屋市地域防災リーダーには、現在63人が認定されています。地域の人々が地域ごとに抱える危険を考えることで、起こりうる災害を想定し、日頃から自分のこととして防災について考え、行動できることを目指しています。



▲鹿屋女子高等学校作成によるオリジナルロゴ

鹿屋市地域防災サポーター

防災訓練等で地域防災リーダーと協力して支援を行う人

鹿屋市地域防災サポーターには、現在24人が認定されています。地域における防災活動等に関心があり、市の防災に関する基礎的な研修を受講した市民であれば、小中高生でもサポーターとして活動できます。

地域防災リーダーの役割

平常時

平常時から、地域の様々な行事等で活躍することで・・・

- 防災・災害に関心を持たせる
- 地域住民全体のために考える
- 地域の行事に積極的に参加する



災害発生

災害時

災害時、地域住民の先頭に立って、地域の防災活動を主導していくことができる



- 非常時に現場の状況を取り仕切る
- 災害対策活動に協力を求める
- 避難所運営など防災活動に関する知識や知恵を活用

新たな取り組み

02

「地域防災リーダー」等を認定

「地域防災リーダー」は、市の防災に関する専門的な知識を生かし、地域における防災の中核として町内会などの自主防災組織が実施する防災訓練等で、指導や支援を行う役割を担っています。

災害現場が「見える」新しい通報機能

「映像通報機能システム」とは、通報者のスマートフォンを使用し消防に災害現場の映像を送信することで、現場の詳しい状況を「視覚的な情報」として把握することができるシステムです。このシステムを活用することで病態に応じた効果的な口頭指導が可能となり、また、災害現場へ出動している消防隊や救急隊と映像を共有することができるため、迅速・的確な対応につながり、救命率の向上が期待できます。

映像通報機能システムの流れ

<p>通報者</p>	<p>1. 現場の情報を映像で伝達</p> <ul style="list-style-type: none"> ●言葉では説明しづらい急病人、火災などの災害状況を通報 ●指令室が必要と判断した際に、通報者にURLをSMSで送信 ●通報者は届いたURLからシステムを起動し、撮影を開始
<p>指令室</p>	<p>2. 撮影した画像や位置情報の共有</p> <ul style="list-style-type: none"> ●GPSによる位置情報や、カメラで撮影された情報を指令室で確認 ●指令室から通報者へ応急手当の映像などを送信 ●指令室では、救急車や消防車などの出動隊と映像を共有
<p>通報者</p>	<p>3. 指令室からの情報を参考に対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ●送信されてきた応急手当などの映像を通報者のスマートフォンで再生 ●再生される映像や指令室からの口頭指導を参考に、通報者は正しい方法で応急手当などを実施
<p>出動隊</p>	<p>4. 救命率の向上や被害の軽減</p> <ul style="list-style-type: none"> ●映像を共有した出動隊が現場に出動、到着 ●スムーズな現場対応で、迅速かつ的確な救命活動の実施

Q1 事故など何でも利用できますか？

A 通報していただいた内容から指令室で必要と判断した場合に、通報者へシステム利用の協力のお願いをします。

Q2 通信料はかかりますか？

A 映像データ送受信時にかかるデータ通信料金は、通報者側の負担となりますのでご了承ください。

新たな取り組み

01

「映像通報機能システム」の運用を開始

大隅肝属地区消防組合では、5月1日から通報者と消防本部間でビデオ通話ができる「映像通報機能システム」の運用を開始しています。



地域防災リーダー
ながた こういち
永田 幸一 さん

私は現在、鹿屋市消防団の寿分団長を務めています。これまでの経験から担当する地区では水害は無いと考えていました。しかし、令和2年の豪雨災害では予想もしていなかった場所が冠水し、車も数台水没。想定を超える災害に恐怖を感じると同時に、このような情報や経験を共有していくことが大事だと考えました。そのため、地域防災リーダーの話聞いたときには、これまで消防団で学んだ防災の知識や経験を多くの人に伝えたいと応募しました。

地域防災リーダーは、まだ始まったばかりの制度。声掛けができる人、何かの技術を持つ人、知り合いがたくさんいる人など、横のつながりを大事にしなが取り組む必要を感じます。この機会に、自分たちの住む地域を自分たちで守る地域防災リーダーを目指しませんか。



大隅肝属地区消防組合
やすだ ひろし
安田 浩士 指令課長

大隅肝属地区消防組合の指令課では指令業務の高度化と救命率の向上に向けた取り組みの一環として「映像通報機能システム」を導入しました。

これまで119番通報を受信したときには、通報者の声による情報のみで現場の状況を把握していましたが、このシステムを活用することにより、視覚情報から、現場の状況を明確化できるようになりました。これにより、出動隊へ質の高い支援情報を送ることや、映像通報者に応急手当の参考動画の送信などが可能となったところです。

県内でもいち早く導入したシステムになりますが、このシステムは通報者の協力なしには効果を発揮できませんので、ぜひ皆さんのご理解とご協力をお願いします。